

分析結果報告書〔1～4〕（共通） 1 / 2

1. 0 廃棄物（ばいじん）試料（溶出試験：検液（溶出液）の作成）

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得（複数回答可）	1. ISO 9001～9003 2. ISO/IEC 17025(か ^o ト ^o 25) 3. MLAP 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1～4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	() 年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	()
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

< 3回の併行のために下記の<試料液の調製>以降は1～3回で概略同様であり、1回目の条件を記入する >

<試料の保存状況>

保存方法	1. 冷暗所保存 2. 保存しない（直ちに分析） 3. その他（ ）
保存時間 注1)	約（ ）時間
保存温度	約（ ）℃

注1) 時間単位で記入する（例えば、60分では1時間、4日では96時間とする）。

<溶出操作等>

検液の作成開始月日	月 日
検液の作成終了月日	月 日

<試料液の調製>

容器	種類	1. ポリエチレン瓶 2. ガラス瓶 3. その他（ ）
	容量	() mL
試料（ばいじん）	量	() g
溶媒（水）	種類	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他（ ）
	量	() mL

<試料液の調製>

試料液の調製から溶出操作（振とう）までの放置時間	() 時間 注2)
--------------------------	------------

注2) 試料液の調製後直ちに振とうした場合には0（ゼロ）時間とする。
時間単位で記入する（例えば、30分では0.5時間とする）。

<溶出操作>

容器	置き方 振とう方向	1. 横置き 2. 縦置き 3. その他（ ） 1. 水平 2. その他（ ）
気温		() ℃ 注3)
気圧		() 気圧 注3)
振とう機	振とう回数	() 回/分
	振とう幅	() cm
	振とう時間	1. 6時間連続振とう 2. その他（ ）

注3) 振とう開始時の気温（室温）、気圧は概略値を記入する。

<振とう後の放置時間>

振とう終了からろ過（又は遠心分離）までの放置時間	() 時間 注4)
--------------------------	------------

注4) 振とう後直ちにろ過した場合には0（ゼロ）時間とする。
時間単位で記入する（例えば、30分では0.5時間とする）。

分析結果報告書〔1～4〕（共通） 2 / 2

<ろ過操作>

遠心分離	実施の有無 回転	1. 実施する 2. 実施しない 1. 重力加速度 () G 2. 回転数 () 回/分、半径 () mm
	回転時間	1. 20分間 2. その他 () 分
ろ過	実施の有無 ろ紙 種類 材質 孔径 メーカー 型式 方法	1. 実施する 2. 実施しない 1. メンブランフィルター 2. その他 () 1. セルロース 2. PTFE 3. その他 () 1. 1 μm 2. その他 () 1. 東洋濾紙 (アドバンテック東洋) 2. ワットマン濾紙 3. その他 () 型式 () (例: H100A など) 1. 吸引ろ過 2. 加圧ろ過 3. 自然ろ過 4. その他 ()
作成したろ液 (溶出液) 量		() mL

<検液の (溶出試験) の作成後>

溶出液作成から検定 (各項目の分析) までの時間 注4)	() 時間
鉛	() 時間
六価クロム	() 時間
銅	() 時間
亜鉛	() 時間
溶出液の保存状況	保存処理 保存状況 保存温度 注5)
	1. 何もしない 2. 塩酸を添加 3. 硝酸を添加 4. その他 () 1. 冷暗所 2. その他 () 約 () °C
検定の方法 (各項目の分析方法) と分析結果	(分析項目ごとのに、分析結果報告書〔1〕 (溶出試験: 鉛) ～分析結果報告書〔4〕 (溶出試験: 亜鉛) に記入する。

注4) 溶出液作成後直ちに分析に必要な量をはかり取った場合には、0 (ゼロ) 時間とする。分析項目ごとに概略の時間を記入する。

注5) 保存していない (溶出液作成後直ちに分析に必要な量をはかり取った) 場合には、記入する必要はない。